

Metanoia NEWS

2023 夏



クルド難民の日本語教室 〈川口芝クルド日本語教室〉

ボランティア団体「クルド日本語教室」との協力体制の下、2022年5月に開講したメタノイアの「川口芝クルド日本語教室」。学校でも家庭でも十分な学習サポートを受けられない子どもたちの学習機会を少しでも拡充できれば、という想いで、子どもたちの歩みに伴走する取り組みをはじめました。スタートから1年が経ち、毎週欠かさず通ってくれる子どもたちも増えてきました。皆さまのご支援のおかげもあり、着実に地域のクルドにルーツを持つ子どもたちの「選択肢」となることができていると感じています。

開講日 月・木・土曜日（1日あたり3-4時間程度）

場 所 埼玉県川口市

参加者 45人（幼児/小学生20人、中高生17人、成人8人） * 2022年度中に1回以上参加した人の数

教室の存在意義

教室には、就学前の5歳くらいの子から高校生、また来日間もない子まで、日々多くの子どもたちが訪れています。

それぞれの背景はとても多様です。まだ幼かった頃に家族と共に来日した子、日本で生まれた子、つい数カ月前に来日した子。日本語の習得状況や、日本語に関する課題の内容も個々人に応じて様々です。

教室では、そのような個々人の状況に合わせて、学習内容やサポート方法を変え、子どもたち一人ひとりにとって有意義な時間が過ごせるようにと試行錯誤しています。学校の宿題やテストに向けた勉強など、本人のやりたいことを中心にサポートするケースもあれば、在籍学年の学習内容を理解できるようにするために、学年を遡って基礎学習をし直すように促すケースや、受験に備えてその子に必要な分野の問題を用意するケースなどもあります。来日間もなく日本語の習得がこれから、という子には今後の生活環境を踏まえた日本語の学習支援を行っています。

それぞれの状況が多様なために1対1の支援が中心となる教室ですが、そのような中でも様々な大人とつながり、誰とでも話がしやすい場、安心できる雰囲気づくりを大事にしています。「この大人はみんな自分を受け入れてくれる」「学校でも家でも話せないことを聞いてくれる」と思ってもらえたら、学習内容の習得と同じくらい、もしくは人生においてはそれ以上に大切な、自分で自分を受け入れ、認めてあげる力を育むことにつながると考えるからです。

学習面のサポートを入口に子どもたちとつながり、どこにも吐き出せないつらく悲しい思いを抱いたような時でも、ここに立ち寄れば心が励まされる、子どもたちにとっての逃げ場のような存在でもありたいと思っています。

川口芝クルド日本語教室の内観





生徒の家でお母さんが振る舞ってくださったクルド料理

協働団体「クルド日本語教室」 主宰・小室敬子さんよりメッセージ

埼玉県川口市で活動している「クルド日本語教室」は、2022年春から、NPO法人メタノイアと一緒にトルコからきたクルド人の児童生徒の学習と生活の日本語をサポートしています。皆様のご支援により、中学生は、埼玉県内の高校受験に必要な「北辰テスト」の過去問を使って、実際の入試と同じような問題に取り組むことが出来ました。また、小学生は漢字を書く宿題が多いですが、書くことよりもまず漢字を読むことが大事だと考え、音読の宿題をクルド人の両親に代わって聞くことにより、聞いてもらえる子どもの喜びを大事にしてきました。

日本語教室では、学校であった楽しいことや悲しかったことを日本語でたくさん話す児童生徒の聞き役になることも大事です。活動している講師の皆さんが温かく児童生徒を見守っています。子どもたちは、クルド日本語教室が安心して勉強したり自分のことを話したりできる場所となっています。これからも、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



関わる大人の広がり

これまで皆さまからいただいたご支援を通じ、子どもたちの学習をサポートする新たな講師の方々を迎え入れることができました。教室の体制を強化したことで、より多くの子どもたちを受け入れることも可能になりました。

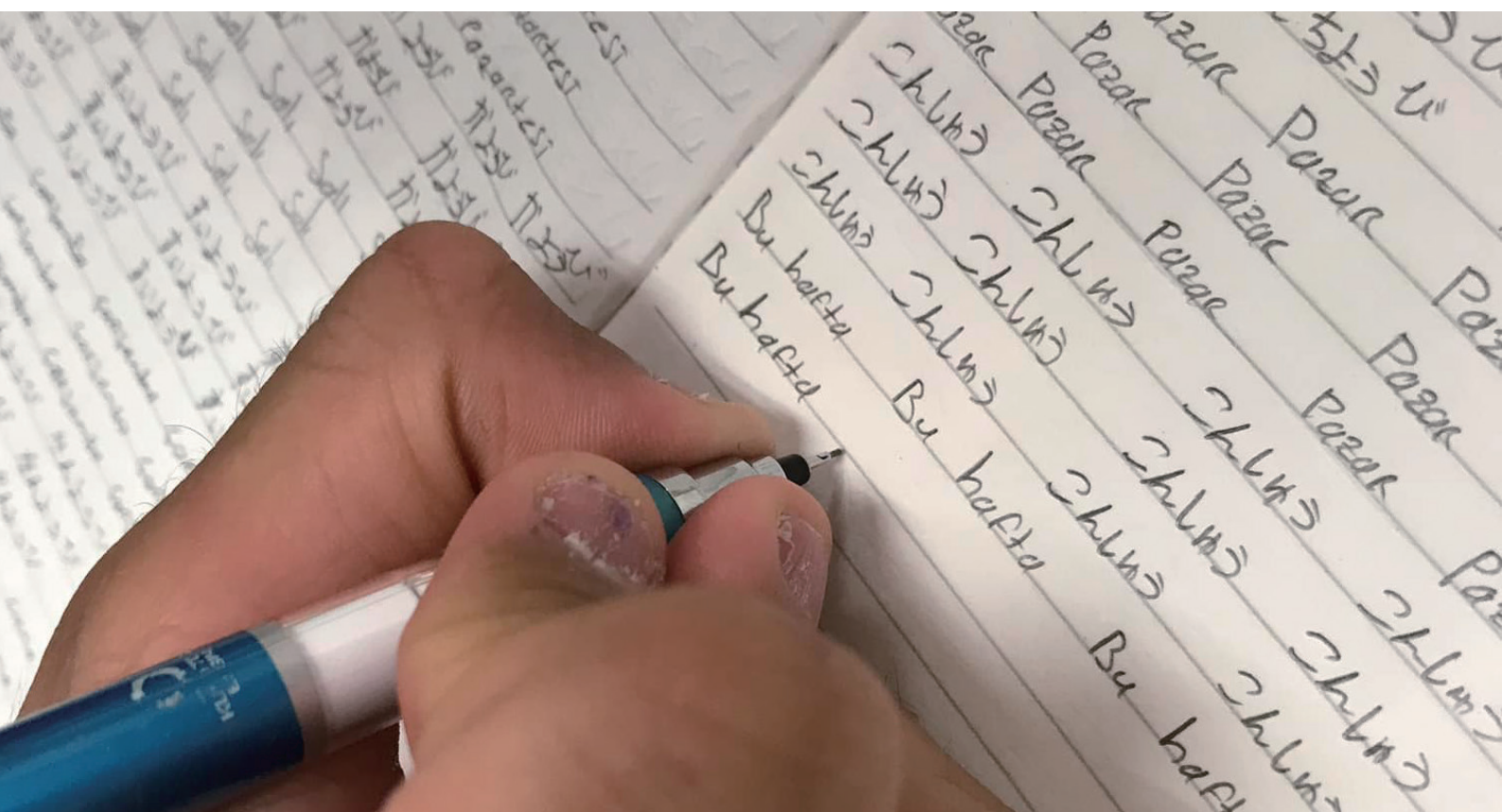
また、私たちの隣人として生きているクルドにルーツをもつ人々の存在を知り、交流を望みつつもきっかけを見つけられないでいた方々が、私たちの教室にボランティアという形で協力してくれるようになっています。メタノイアの活動が、クルドにルーツをもつ子どもたちと日本社会とのつながりを強化するきっかけとなり得ると捉えています。

多様な背景をもつ子どもたち一人ひとりに寄り添い、共にありたいと考える仲間の存在そのものが、「他者」に対して排他的な側面も持ち合わせるこの社会において、とても心強く、活動を支える要となっています。

国会では現在、出入国管理及び難民認定法（入管法）の改定案が審議されています。本法案が可決されると、私たちが日々出会う子どもたちの明日が今以上に見えなくなってしまう可能性があります。日常生活が突然奪われ、記憶にもない、行ったこともない「祖国」に強制送還させられてしまうかもしれない、家族が離別させられてしまうかもしれない、今ある在留資格が突然剥奪されてしまうかもしれない。

そのような重荷を背負わされている子どもたちが、これからも自分の人生を生きていけるために、今何が必要か。私たちには何ができるのか。問い続けながら、引き続き子どもたちのもとにでかけていきたいと思います。

「日本語も覚えたいがトルコ語も忘れたくない」と両方の言葉を書いて勉強するクルド人中学生





ウクライナ難民幼児の作品

ウクライナ難民伴走支援

昨年2月のロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻以来、2,000人を超える方々が日本に避難してこられました。既に避難生活が1年を超える方も少なくありませんが、皆様ご存知の通り、戦火は止まず、帰国の目処は一向に立ちません。中には避難先である日本に定住することを決意した方々もいらっしゃいます。

私どもメタノイアは、一刻も早い帰国を望む方も、日本への定住を望む方も、それぞれの思いを丁寧に聴き取りながら、昨年6月頃から日本語学習を中心とした必要な支援を届ける取り組みを継続してまいりました。皆様のご寄付により、1年近くに及ぶ息の長い活動を継続させていただけることに、改めて感謝申し上げます。

開講日	日本語学習：週1～4回 / 生活相談：随時
場 所	オンライン および 東京都・埼玉県
参加者	日本語レッスン 10人 (子ども～10代6人、20代以上4人) 生活等の相談 7人

長期化する避難生活と子ども

先日、ある中学生の家庭を訪問しました。昨年の早い時期にウクライナから日本へ避難をしてきて、すぐ地元の中学校に編入することができたといいます。しかし、今はもう学校に通うことをやめてしまいました。言葉の壁はもちろんですが、特に彼女の学校生活を妨げたのは、「自分たちで掃除をする」という日本独特の習慣だったそうです。

しかし、おそらくそれは幾重にもなる理由の一つに過ぎなかったのでしょうか。故郷を否応なしに追われ、いつ帰れるとも知れず、未知の国である日本で暮らし始めた彼女にとって、小さな違いを受けとめるような心の余裕もなかったのだと思います。ウクライナとの大小様々な違いに疲れ、ぴんと張った心の糸が切れてしまったのではないかと想像します。

いま、彼女にとって必要なのは日本語学習の支援ではないでしょう。しかし、学校に行っていないことの不安、あるいは後ろめたさのような気持ちからか、本人が「日本語を学びたい」と言っていると伝え聞きました。私たちはこれをチャンスと捉えました。日本語のレッスンというきっかけを通じて彼女の心の声に耳を傾ける機会を与えてもらえたと思っています。ゴールデンウィーク明けから、毎週1回のレッスンを始めています。

2年目に入った避難生活、日本語レッスンの時間に交わされる先生とのおしゃべりを通じて、前向き、後ろ向き、いろいろな心の声を吐き出してくれたらと願います。



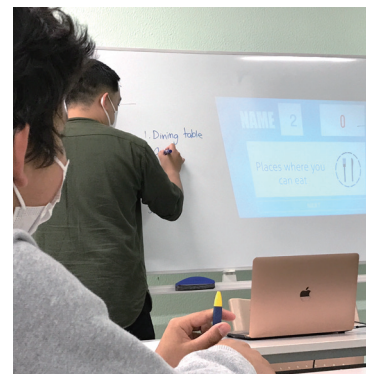
ビーズを使ったアクセサリー作りが趣味

多様なルーツをもつ方々と共に

難民のバックグラウンドをもつ子どもだけでなく、多様なルーツをもつ子どもやその家族の方々と
の新たな出会いに日々恵まれています。一部のプログラムをご紹介します。

あだち子どもの日本語教室

開講日 毎週土曜日 午前（竹の塚教室）／午後（新田教室）
場 所 東京都足立区の公共施設
参加者 約 30 名 4～15歳の外国にルーツをもつ子ども



English Club

English Club / 蒲田日本語教室

開講日 毎週土曜日 夕方
場 所 東京都大田区蒲田の公共施設
参加者 約 8 名 英語を第二言語（学習言語）とする小中学生

オンライン母語クラス（中国語）

開講日 毎週土曜日 午前
場 所 オンライン
参加者 5 名 6～9歳の中国語を母語とする子ども



読み聞かせ会（中国語）

母語による読み聞かせ会（中国語）

開講日 隔月
場 所 東京都足立区の公共施設
参加者 約 15 名 0～15歳の中国語を母語とする子ども

第三国定住難民の日本語教室

開講日 毎週土曜日 午後
場 所 埼玉県の間民施設
参加者 約 10 名 政府受入れの第三国定住難民（成人）

その他、あだちプレスクール、岐阜おとなの日本語教室、オン
ライン日本語教室など一部プログラム（助成事業）については
別途報告書を作成しています。

右記 QR コードから、またはメタノイア Web サイトからもア
クセスいただけます。どうぞ、ご一読ください。





NPO 法人メタノイア
代表理事

山田 拓路

祖国の紛争・軍事侵攻によって命が脅かされてきたクルド難民やウクライナ難民の子どもたち。争い合う大人の身勝手に翻弄されながら生きる苦労は計り知れません。そして辿り着いた日本でもまた、言葉の壁に行く手をはばまれています。

しかし、そんな子どもたちの多くは、背景にある困難を忘れさせるくらいあっけらかんとしていて、日々笑いながら走り回っています。その姿に、私は生きる元気をもらってきました。すべての子どもは可能性であり、未来であると思います。

どうか、この子どもたちの学びの機会を守る活動をお支えください。



NPO 法人メタノイア
理事

荻野 直人

私が活動している障害者福祉の分野には、このような言葉があります。「ある社会が その構成員のいくらかの人々を閉め出すような場合 それは弱くもろい社会である」(1979年に国連総会で決議された国連障害者年行動計画の一文)

今の日本は、だれもが自由を侵害されずに、個人の能力を発揮できる社会になっているでしょうか。すでにこの国や地域で生活している外国人や海外にルーツをもつ人たちは、私たちと同じ社会の構成員です。

そうであるならば、教育、子育て、就労、住まいといった公的な支援は必要です。公的な支援が乏しい中、メタノイアが行う難民への教育支援は日本社会を「弱くもろい社会」から「強くしなやかな社会」へつくりかえていくための大事な活動です。みなさま、ぜひ寄付のご協力をお願いします。

ご寄付のお願い

お一人のご寄付が、日本で生きる難民の方々や子どもたちの未来を変える大きな力になります。ご支援をお願いいたします。

▶ 郵便振替（現金払込）

添付の「払込取扱票」をご持参いただければ、郵便局 ATM または窓口から現金でご送金いただけます。
〈ゆうちょ銀行振替口座〉 00150-6-768645 特定非営利活動法人 メタノイア トクヒ) メタノイア

▶ クレジットカード



月 1,000 円～ の寄付で継続的に支える〈マンスリー・サポーター〉、または、今すぐ希望の金額の寄付をする〈今回のみの寄付〉をお選びいただけます。右の QR コードから、当法人ウェブサイトへアクセスしてお申込みください。



NPO 法人メタノイア
寄付ページへ